

平成30年度 学校評価総括表

教 育 目 標		<ul style="list-style-type: none"> ・ 人権を尊重する民主的な社会の形成者として、豊かな人間性と創造性を備えた生徒の育成を目指す。 ・ ものづくりとビジネスの実習、演習を通して、技術を身に付け社会に貢献できる生徒の育成を目指す。 				総合評価	
運 営 方 針		「ものづくりとビジネスの出会いを通して人作り」をスローガンに、高等学校普通教育並びに工業科・商業科等に関する基礎的・基本的な知識と技術を身に付けさせて、産業及び文化の進展に貢献し得る豊かな人間性と自立的な態度を育成するとともに、清新な気風に満ちた魅力ある校風の樹立を目指す。				B	
昨年度の成果と課題		本 年 度 の 重 点 目 標		具 体 的 目 標			
生徒自身に将来の進路を見据えさせ、一人一人が主体的に自己実現に向けて取り組めるよう、教育活動をおこなってきた。学習面や生徒指導面において一定の成果が現れてきた。 本年度はより一層の基礎学力の充実と、基本的な生活習慣を確立し、他人とのコミュニケーションを図ることができる生徒を育成したい。		(1) 自信と誇りを持ち、地域や県全体を活性化させる原動力となる人材を育てる。		<ul style="list-style-type: none"> ・ 各学年・科別のシラバスを活用し、つきたい力を生徒個々に理解させるとともに、基礎学力の定着を図る。 ・ 個々の生徒にとって超えることが可能な目標をその都度設定させ、目標を達成した経験を増やすように図る。 ・ 自己の目標を明確にし、その達成に向けた取組の一貫として資格や検定の受験を奨励し、合格者増加を目指す。 			
		(2) 困難にも打ち勝つ強い体力と精神力を養う。		<ul style="list-style-type: none"> ・ 体力テストの取組を強化し、体力の重要性に関する意識付けを行う。 ・ 体育の授業を通して体力の向上を図る。 ・ 部活動への加入率を向上させ、その活性化を図る。 			
		(3) 産業人の卵として必要な資質を磨き、ルールやマナーを守り、感謝の心を忘れない生徒を育成する。		<ul style="list-style-type: none"> ・ 挨拶運動や奉仕活動を実施することにより、規範意識の向上を図る。 ・ 全ての教育活動を通じて、勤労観、職業観を育む。 ・ 社会の一員として必要なマナーやルールの定着を図る。 			
		(4) 学校力の向上と家庭教育力の向上を図る。		<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校としての組織力の強化と教職員の指導力を向上させるため、組織の見直しや教職員の研修会参加を促す。 ・ 家庭訪問や教育相談で家庭との連携を図る。 ・ チーム「奈良朱雀定時制」の教員集団として、生徒、保護者及び地域とのよりよい関係を構築する。 			
評価項目	具体的目標(評価小項目)	具 体 的 方 策 ・ 評 価 指 標		自己評価結果	成 果 と 課 題 (評 価 結 果 の 分 析)	改 善 方 策 等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
学習指導	わかる授業及び学力をつける授業の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各教員が当該教科・科目のシラバスを作成するとともに、これを用いて年度当初に生徒へ学習の目的や学習内容、評価方法を周知する。 ・ 各教員が当該教科・科目において、2, 3学期当初に学習内容等を再度周知確認する。 ・ 機械・ビジネスの専門教科でシラバスを活用し、指導方法や教材の工夫、学習方法の把握の仕方などについて情報交換を行い、指導力の向上に努める。普通教科間でも同様の取り組みを行う。 ・ 1学期末に生徒による授業評価を行い、その結果を授業改善に生かす。 		B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観点別評価の深まりとともに、評価基準や観点を明確にした授業の展開が徐々に形になっている。より一層深めていきたい。学習内容の確認も、観点を意識することにより明確化されてきていると思われる。アクティブラーニング等の実践により今後一層の観点明確化と進展を図りたい。 ・ アクティブラーニングの実践内容を各教科から提出してもらったが、全体での職員研修ができていないので、機械とビジネスの意見交換も含めた全職員での研修を重ねていきたい。 ・ 各教科・科目でふりかえりシート等のアンケートで授業改善に取り組んでもらっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観点別評価の研修の継続充実、アクティブラーニングの定着化による指導目標の明確化を引き続き行う。 ・ アンケートの継続と分析を行い、問題点を研修し、各自の実践課題とする。(学校評価アンケートなど) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ようやく本校でも観点別評価による学力評価を導入いただいた。ここまで各先生方への研修を含め、ご準備に対してお礼を申し上げます。次年度からは職員研修を通してぶれないものさし(ルーブリック)の作成に向けて取り組んでもらいたい。
	個に応じた指導の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中間考査後の成績を全職員で確認し、意見交換のもと個々の生徒の学習状況を把握・確認する。 ・ 常に学習の必要性を訴えかけるとともに、特に1, 2学期末の成績不振者への指導において、普段の学習が成績に反映されることを十分に理解させながら指導する。 ・ 個々の生徒の興味関心や学習意欲を充実させるために、授業においては全体指導とともに、進捗度に応じた課題を行う時間を設けるなど工夫する。 		B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 成績結果の意見交換はできたと思われる。あらゆる面で生徒の共通理解に努めていきたい。 ・ 普段の学習の重要性や積み重ねの大切さは、担任を中心にHR等で展開が行われている。今後も取り組んでいきたい。 ・ 各教科科目で、授業内容を検討していただき、放課後等に補助的な指導も行われている。今後もお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の実施と職員研修などによる意見交換の実施、継続。 ・ 担任や教科担当からの粘り強い呼びかけや教育相談の充実。 ・ 基礎学力を定着させるための個別指導や励まし。(放課後等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎学力を身に付けさせることは、将来の進路選択を行う上でも重要となってくる。向上するためのしぐみを検討いただきたい。
	資格・検定の取得に対する積極的な支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ 取得可能な検定や受験可能な資格の情報を広く生徒に提供し、資格取得への関心を高める。 ・ 生徒の実力や状況に即して、検定を取得することが将来、社会人として生きていく上で有益であることを、授業での実践を通して理解させるように努力する。 ・ 機械科、ビジネス科で取り組んでいる資格や検定を、生徒の段階に応じて、できる限り受検するように呼びかけていく。 		B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 検定の呼びかけや重要性は伝えたが、興味関心を示す生徒の数は増えたとはいえない。 ・ 生徒への興味関心を喚起するとまではいかなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「検定の意義と重要性」だけでなく、検定のある教科を含めて、学ぶことの楽しさを感じさせるような教材研究、授業研究を行う。 	
生徒指導	基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 遅刻・欠席防止を徹底する。(昨年度の20%減) ・ 挨拶の励行、時間厳守及び自己管理の徹底を目指す。 ・ 各授業や学校行事等に臨む際の姿勢や態度などにおける基本的なマナーの向上を図る。 ・ 交通安全教室及び巡視指導等を通して、通学時の安全確保に努めるとともに、交通マナーの向上を図る。 ・ 月1回生徒配布プリントにより、たばこの害に関する健康意識の取り組みを一層充実する。 ・ 個別面談や家庭訪問で把握した生徒の状況を、教職員間での共通理解に努める。 		B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 欠席については減少したが、遅刻については減少出来なかった。 ・ 生徒会の協力により、挨拶する習慣が定着するようになってきた。 ・ 集会時における姿勢や態度等の基本的なマナーや通学時のマナーはほぼ達成できた。 ・ 月一回「たばこの話」を発行し、喫煙における健康被害を中心に指導を行った。 ・ 家庭訪問で得た情報を生徒の状況として資料作成し情報共有を図りながら教職員間の共通理解を深めた。 	4年間の指導を通して学校のルール、時間厳守、社会のきまりをしっかりと身につけさせたい。又、授業や日常生活の関わりの中で生徒の変化を観察し、継続して指導していかなければならないと思う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒会が今までにもまして活発化してきたことは関係者の努力の賜である。今後もより活性化するようご指導お願いしたい。 ・ 授業中スマホを触っている生徒に対する指導の徹底をお願いしたい。
	生徒会活動の活性化及び部活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒会役員の主体的活動や生徒会行事の活性化を図る。 ・ 部活動の勧誘を積極的に行い、加入率を昨年度より上回るようにする。 		B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒会の打ち合わせをこまめに実施し意志疎通を図った。特に登校時における挨拶運動は他の生徒に刺激を与え、少しではあるが自主的に挨拶が出来るようになった。 ・ 部活動においては制約された時間の中で活動を行い陸上部においては全国・近畿大会に、バドミントン部は近畿大会に出場し活躍してくれた。 	生徒の主体性や自主性を高めるような生徒会活動、部活動の在り方を更に検討していきたい。	

評価項目	具体的目標(評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
人権文化	人権教育 HR の充実	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の人権感覚を高めるために、人権の視点を大切にしたものを見方を深めるための人権教育 HR の充実を図る。 テーマとして「部落問題」「在日外国人問題」「障害者問題」に加え、「性的少数者の人権」を四年間で実施できるように計画を具体化する。そのための職員研修の充実を図る。 	B A	<p>1学期は学年別にテーマを設定して HR を実施した。2学期は「多文化共生社会を考える」というテーマで HR を全学年で実施できた。事前に担任を中心に職員研修を実施できたことで HR 展開は効果的だった。</p>	<p>今後も担任を中心に人権教育 HR の職員研修を充実させていくと共に様々な人権課題をテーマとして取り上げたい。</p>	<p>何気ない普通の会話の中に人を傷つける発言が含まれているのを耳にする。SNS においてもそうであろう。差別する意識がなくとも発することは人を傷つけることを気づかせる HR 展開をお願いしたい。</p>
	校内生活体験発表会と奈良県高等学校生活体験発表会に向けた取り組みの充実	<ul style="list-style-type: none"> 奈良県定通制生徒生活体験発表会の運営担当校として生徒が運営に積極的に取り組めるよう計画を進める。 発表会を通じて同じ学校で学びあうなかまとして、なかまの思いを共感、共有する力を培うことをめざし、思いを共有することで生徒個々の自尊感情を高め、自己実現への意識を高める。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 校内生活体験発表会は、8クラス全クラスより代表生徒が発表行うことができ、生徒間で思いを共有することができた。 奈良県生活体験発表会は、担当校として、生徒が運営に積極的に取り組むことができ、充実した発表会を実施することができた。 	<p>今後も校内生活体験発表会の充実を図り、個々の生徒が積極的に取り組むよう指導の充実を図る。</p>	
進路指導	生徒理解(1～4年)と進路学習	<ul style="list-style-type: none"> 「自己点検シート(1年)」及び「進路希望調査(1～4年)」等を利用して生徒理解に努め、全教員で個に応じた進路指導が行えるようにする。 生徒自身が自己の進路を考える上での参考となるよう、進路学習会を実施する。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 自己理解をさせることによって、定時制高校で自分が何をすべきなのか考えさせなければならない。 生徒が意欲的に進路決定の取り組みが行えるよう考える。 生徒への指導力を向上させる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 「進路希望調査」「自己点検シート」の活用 進路 HR の実施 「進路講演会」の実施 「進路指導に関する職員研修」 	<p>低学年からキャリア教育に取り組んでもらいたい。</p>
	4年生の進路決定	<ul style="list-style-type: none"> 就職…より効果的な指導を行い、内定率を高める。(就職相談、企業訪問、応募前職場見学、各関連機関との連携、就職試験対策、事務処理等) 進学…将来の職業選択に繋がるような指導、情報を提供する。(進学相談、学校訪問、学校案内・募集要項の取り寄せ、学校見学・体験の紹介、入試対策、事務処理等) 進路実現のため、担任と保護者との連携強化に努める。 	A B	<ul style="list-style-type: none"> 就職希望生徒1人あたり2社の応募前見学を行った。 ハローワークの学卒担当者との連絡、情報交換を密にした。 コミュニケーション力、基礎学力、常識力が不足しており、これらを向上させる取り組みが必要である。 趣旨違反等の問題事象はなかった。就職差別に対する正しい認識を持たせなければならない。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力を向上させる取り組み(個々の学力の差をどうするか) 各種資料の提供 引き続き、人権文化部と連携を図る。 	<p>教員全員が、進路指導(就職を含む)できるよう、情報共有や職員研修をお願いしたい。また学校を挙げて基礎学力の向上に取り組んでもらいたい。</p>
	各種奨学金の申請及び事務処理	<ul style="list-style-type: none"> 「奈良県高等学校等奨学金」「奈良県高校生等奨学給付金」「日本学生支援機構奨学金(給付・貸与)」「石澤奨学金」などの申請や事務処理を適切に行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 各種奨学金の円滑な申請、事務処理ができた。家庭状況(経済的な部分を含める)の把握に努めなければならない。 進学用給付奨学金は次年度、新制度となり、理解が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報の扱い、処理の煩雑さなどから今年度同様に事務を行う。 必要に応じて情報提供 	<p>様々な事情のある家庭がある中で個別に対応いただいていることに感謝申し上げる。</p>
環境保健体育	体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> スポーツテストを通じて、生徒一人一人の運動能力を把握し、課題等を明確にして体育の授業や体育行事を工夫しながら、年齢層に応じた体力の向上に取り組む。 	A	<p>スポーツテストの参加率は約97%を超え生徒一人一人の運動能力を把握することができた。体力向上については準備運動で縄跳びや筋力トレーニングを入れ体力強化を図った。</p>	<p>各生徒の能力は把握出来、縄跳び等筋力トレーニング実施の効果が出了。</p>	<p>限られた時間での体力強化はすばらしい。次年度も効率よくお願いしたい。健康診断受診に関しては全員が受診できるようめざしていただきたい。安全教育に関して、職員研修等により共通理解が必要である。</p>
	健康の保持増進及び安全教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 定期健康診断や各種検診を計画的に実施をし、生徒個人の健康状態を把握させる為にも各検診の受診率90%以上を目指す。 家庭との連携を密にし、協力を得ながら治療勧告書を発行して効果的に活用する。 	A B	<p>生徒の定期健康診断の平均受診率93.5%。心電図・結核検診が5月に実施されたため長欠生徒の欠席が出了。4月中にすることが望ましい。</p>	<p>心電図・結核検診は生徒の状況も踏まえ4月にすることが望ましい。</p>	
	環境整備と環境美化への意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> 随時、施設の安全点検を行い、環境整備に努める。 環境美化への意識を高めるために各クラスの環境委員会を中心としたゴミの分別など、生徒の自主的な清掃活動に取り組ませる体制づくりを行う。 	B	<p>学校全体の環境美化状況は、HR 等での指導により、教室や廊下等のゴミはかなり減ったように思われる。その他清掃活動については自主的に清掃を行うことが望ましい。</p>	<p>環境整備についてはクラス運営の一環として適宜行うよう指導する。</p>	
機械科	<ul style="list-style-type: none"> 基本的、基礎的な知識・技能の確実なる習得 各種検定試験への支援 ものづくりへの興味・関心の育成 	<ul style="list-style-type: none"> 座学で学習した内容をしっかりと理解し、その内容を実技を通して再確認し作品を加工する手順を学ぶことに評価の対象を置く。 レポートを作成させることで実習内容の確認ができ、学習内容の評価を確実にする。 機械科に関する各種検定試験について、放課後及び長期休業期間を利用して支援する。 機械科としてもものづくりの大切さを認識させ、人の役に立つものを製作することに重点を置き、評価の基準とする。 	B A	<p>粘り強い指導により、落ち着いた学習態度が身につけてきており、安全に意欲的に取り組める生徒が増えてきた。学習においては、座学で学んだ内容を効果的に実習に結び付け、工程を確認しながら理解して作業をできるようになってきている。また、資格検定については夏休みを中心に8名の生徒が各種検定を受験し合格することが出来た。</p>	<p>安全指導を徹底し、引き続き大きな事故の無いようにしていきたい。進路実現を意識させ、意欲的に学習に取り組む姿勢や目的意識を向上させていきたい。</p>	<p>課題研究においてすばらしい取り組みをされていることにお礼を申し上げる。機械科で学んだことを生かした進路選択ができるようお願いしたい。</p>
ビジネス科	<ul style="list-style-type: none"> 授業方法の工夫 各種検定試験(希望者)への継続的支援 	<ul style="list-style-type: none"> ICTを活用し、授業方法の工夫改善を行う。 各種商業関係の検定試験受験希望者に対し、放課後の補習・部活動を通じて支援する。 商業科教員間の意見交換等を、学期に一回以上実施する。 	B B	<ul style="list-style-type: none"> ソフトウェアの活用方法の授業展開や作表問題の解説において実物投影機やコンピュータ画面の提示をおこない、視覚にも理解しやすいようおこなった。 珠算電卓検定(普通計算部門)において、1級や2級の上位級の合格者があった。また、簿記検定において3級の合格者や受験希望者を出すことができた。 定例の会議だけではなく、必要な時に意見交換をおこなうことができた。 観点別評価の意見交換をおこなった。 	<ul style="list-style-type: none"> インターネットを利用した授業展開などより多様な活用方法を模索していく。 資格を取得しようとする意識を向上させるために、授業内容とリンクしながら学習内容の理解しやすいように努め、受験に向け取り組めるようにしたい。 従来以上に情報共有が必要になってきているので、より密に意見交換をしたい。 	<p>情報処理等において工夫された教材作りとわかりやすい説明により高度な作業ができるようになった。課題研究においてより個々の考えが表現できるよう指導をお願いしたい。また、資格の取得者を増やしていただきたい。</p>